文化財通信くまもと

第 8 号
平成7年3月
熊本県教育委員会

庵ノ前遺跡出土甕棺

はじめに

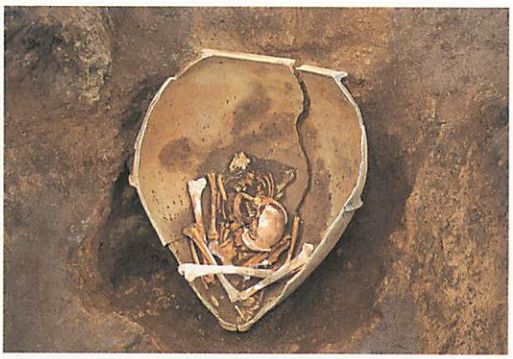
上の写真は、庵ノ前遺跡（熊本市龍田町上立田）から出土した弥生時代中期（約2,000年前）の人骨です。熊本県内から発見される甕棺から、このように完全な人骨が出土するのは、非常にめずらしいことです。

文化課では平成5年度も県内各地で発掘調査を実施しました。一口に発掘調査といっても数年間にわたる大規模なものから、数週間程度の小規模な調査まで様々なものがあります。しかし、規模の大小にかかわらず、遺跡は我々の祖先の生活について、同じように貴重な情報を提供してくれます。

今号では、文化財調査第2係が担当する開発工事関連の文化財発掘調査のうち主要なものを取り上げています。

庵ノ前遺跡	所 在 地　熊本市龍田町上立田字古閑山 調査面積　約6,200㎡ 調査期間　平成5年4月～平成6年3月

庵ノ前遺跡は熊本北高等学校の北東側の畑の中にあります。熊本北バイパスの建設予定地にあたるため、発掘調査が行われました。その結果、縄文時代早期（約7,000年前）の土器のかけらや矢じり、弥生時代の甕棺墓や住居跡などが見つかりました。



8号甕棺

甕棺墓

甕棺墓は大型の土器の中に遺体を入れて埋めた弥生時代のお墓です。庵ノ前遺跡からは合計12基の甕棺墓が見つかり、そのうち5基から人骨が出土しました。うち、8，9，10号墓から出土した3体は良好な状態で残っていました。

甕棺出土状況

調査の結果、8号甕棺人骨は30歳代の女性で、身長約151.6㎝、9号甕棺人骨（1ページの写真）は50歳くらいの女性、身長141㎝で、左腕に骨折の痕があること、10号甕棺人骨は年齢は不明ですが、身長159.4㎝の男性であることなどがわかりました。現在、これらの人骨は専門家の手によってさらに詳しい分析が行われています。骨の保存状態がよければ、性別や年齢、身長はもちろん、血液型、死因、病歴など様々なことがわかり、この時代のことを知る大きな手がかりとなると思われます。

2号住居跡

住居跡

庵ノ前遺跡からは、同じ弥生時代の住居跡も3軒みつかりました。出てきた土器から、甕棺墓よりは新しい時期と思われます。

古池さん北遺跡

所 在 地　阿蘇郡西原村大字桑鶴
調査面積　約700㎡
調査期間　平成６年２月～平成６年３月

古池さん北遺跡の発掘調査は、県道熊本高森線の道路改良工事に伴って実施しました。遺跡は、俵山北西側の緩やかな斜面にあり、標高は約345ｍです。遺跡南側の約50ｍ離れた所には、豊富で清らかな水が湧いている「古池さん」があります。昔、遺跡で生活した人々もこの湧水を利用したと思われます。

航　空　写　真

遺跡では縄文時代後期の竪穴住居跡１軒と縄文時代早期の集石２基が見つかりました。その他に縄文時代の早期・後期から晩期にかけての土器や石器が数十点出土しました。

蚕業試験場遺跡

所 在 地　熊本市水前寺６丁目237番地
調査面積　約4,000㎡
調査期間　平成５年10月～平成６年２月

新県庁舎の建設工事に伴って、蚕業試験場遺跡の発掘調査を行いました。遺跡の調査前の現状は県庁舎北側の駐車場でした。

調査の結果、平安時代の掘立柱建物跡３棟、井戸跡１基、道路跡14本、ポケット貝塚１基、溝跡10本、土坑９基などが見つかりました。道路跡と溝跡のいくつかは鎌倉、室町時代のものです。

発掘作業風景

１棟の掘立柱建物跡では火災の跡が見つかり、ポケット貝塚からは、多量のニナが出土しました。また10基の土坑からは10数点の土師器や須恵器が出土し、土師器のほとんどには墨で書いた文字があります。その中の一つには「仁王」と書かれたものもありました。

松岡屋敷跡・平山瓦窯跡

所 在 地　八代市平山新町
調査面積　計約7,000㎡
調査期間　平成５年４月～平成６年３月

松岡屋敷跡と平山瓦窯跡はＪＲ鹿児島本線肥後高田駅の裏手にある遺跡で、建設省の南九州西回り自動車道建設に伴って調査をおこないました。

松岡屋敷跡

松岡家は、南北朝時代征西大将軍として当地に赴いた懐良親王の家臣として、この地に居を構え、代々受け継がれてきました。

調査の結果、屋敷の明確な遺構は発見されませんでしたが、江戸時代に焼かれた高田焼（八代焼）が多く出土しました。特に目を引くものとして、将棋の駒（飛車）、陶印、徳利、湯飲み、クレイパイプ等で、どれも精巧な白と黒の象眼が施してあります。

松岡屋敷跡出土遺物（高田焼）

平山瓦窯跡

調査の結果、瓦窯跡（平窯、通称ダルマ窯）が３基発見されました。窯の周辺から、今の八代城の初代城主加藤正方の家紋入りの軒丸瓦が出土していることから、この窯は江戸時代の初期に造られたものではないかとおもわれます。

窯の他には、窯で焼く際に、焼き損じたり割れたりした失敗作をまとめて捨てた、瓦溜めが14基発見されました。その中には平瓦、丸瓦、軒平瓦、軒丸瓦、鬼瓦などさまざまな瓦が含まれていました。

平山瓦窯跡２号窯

平山瓦窯跡出土瓦

中世から近世にかけての城の瓦を焼いた窯跡は県内ではほとんど発見されていませんでしたので、今回の発見はとても貴重な成果と言えるでしょう。

頭地1遺跡（とうじいち）

所 在 地　球磨郡五木村頭地
調査面積　約7,000㎡
調査期間　平成5年4月～平成6年3月

頭地1遺跡は、川辺川ダム建設により水没する集落の代替予定地にある遺跡です。予定地内には、現在のところ5ヵ所の遺跡が確認されており、五木村教育委員会と県文化課により調査が進められています。

頭地1遺跡からは、平安時代頃の黒色土器や古墳時代前半の住居跡、縄文時代前期・後期の土器なども見つかっていますが、約6,500年前に鹿児島県の喜界カルデラから噴出したアカホヤ火山灰の下から、縄文時代早期の土器や石器などがもっとも多く出土しています。その数は現在のところ約30,000点となっています。土器は、その文様から、南九州的なものがほとんどです。

航　空　写　真

山川板碑群（やまかわいたび）

所 在 地　阿蘇郡小国町大字北里字山川
調査面積　約100㎡
調査期間　平成5年12月

山川集落の北側斜面に、笠を持つ板碑が、まわりを石垣のように囲まれた場所（基壇）に立っています。板碑は4基あり、赤で彩色された地蔵菩薩などが彫り込まれているものや、墨字で梵字や年号が書かれているものがあります。上が三角形で横に2本の溝が刻まれているものは、県内にはたくさんありますが、その上に屋根のような笠が乗っているものは、九州にはほとんどなく、たいへん貴重なものです。

つくられた年代は、書かれた墨字の年号などから16世紀の終わり頃です。

板碑検出状況

大塚（おおつか）遺跡

所在地　玉名市立願寺1163番地他
調査面積　約2,880㎡
調査期間　平成5年9月～平成6年1月

大塚遺跡の調査は、県道改良事業に伴い実施しました。調査地の周辺は、古代の郡の役所、倉庫、お寺（立願寺）などがあったと考えられていた所です。

調査の結果、奈良～平安時代の多くの土器や、数点ですが「立願寺瓦」と呼ばれる瓦が出土しました。また、掘立柱建物や溝、多量の土器が捨てられた掘り込みも見つかりました。これらは郡の役所に関連するものではないかと考えられます。

立願寺瓦出土状況

★質問コーナー★

小判は出たな？

（その2）―発掘調査の現場などでよく耳にする素朴な疑問にお答えします―

Q：縄文時代の人びとはどんな服装をしていたのでしょうか。

A：汚くて、怖いという縄文人のイメージは、「髪やひげをのばし、上半身裸で、腰には毛皮をまいて歩き回る」姿です。はたして正しいのでしょうか。では、どんな身なりだったのでしょうか。

残念ながら、衣服であるとか、冷凍保存されたり、ミイラになった縄文人とかは、未だに発見されていません。ですから、あくまでも想像の域です。しかし、想像を助けてくれる材料がいっぱい見つかっています。

① 時々、竹や葦の編物の跡がついた土器が見つかります。当時から、編むという技法があったようです。また、編物の端切れも見つかっています。こうしたことから、当時の衣服に編物が使われていたことが想像されます。

② 「魏志倭人伝」の中に、布に穴をあけて作っただけの簡単な衣服（貫頭衣）の記述があります。こうしたことから、縄文時代でも編物を使った貫頭衣があったことが想像されます。

③ 前開き式の衣服をまとったり、ズボンをはいた土偶もあります。このことは、服の種類が豊富だったことを教えてくれます。

古い歴史教育の伝統が私たちに付きまとい、私たちは、つい、毛皮を身にまとった野蛮な縄文人を想像しがちです。でも事実は違います。古い歴史教育という衣を早く脱ぎ捨てて、真実の歴史という衣をまとって、縄文時代のことを想像したいものです。

古閑北（こがきた）遺跡

所 在 地　上益城郡益城町福富
調査面積　約10,000㎡
調査期間　平成５年６月～平成６年３月

縄文時代の終わり頃（今から約2,500年前）に建てられたと思われる竪穴住居跡（地面を掘り下げて造った家）が13軒ほどと、当時の人達が使用したと思われる縄文土器がたくさん発見されました。

その頃、この遺跡の南東側（現在広安西小学校が建設されているところ）に湧水地があり当時の人達は、この湧水を利用して生活していたようです。また、鹿や猪などを捕まえる落とし穴や、弓矢の先端に利用した石鏃（主に黒曜石で作ったやじり）も多く発見され、狩りがさかんに行われていたようすがうかがえ、食料も豊富だったようです。

この遺跡の発掘調査は、平成６年度・７年度と三ヵ年計画で行われる予定です。

縄文時代住居跡

埋甕出土状況

めずらしい焼物（高田焼）２例
クレイパイプ

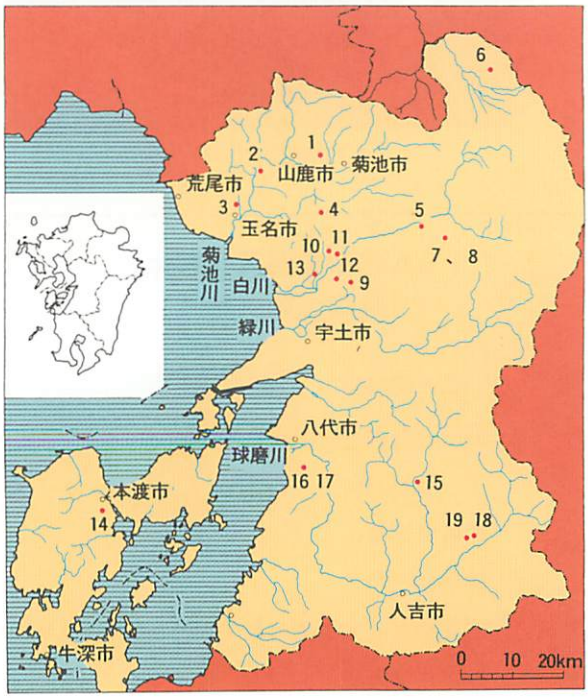
江戸時代に長崎の出島に、外国から持ち込まれたパイプを模して、八代市の上野（あがの）窯で焼かれたもの。輸入されたものは、全国で数列発見されていますが、その複製品の発見例は、まだ報告されていません。

八代市松岡屋敷跡出土
将棋の駒（飛車）

この将棋の駒は、焼物です。粘土の質、象嵌の技法、釉薬の色などどれをとってもすぐれており、玩具というより美術品としても、貴重なものといえます。

平成５年度に調査した遺跡

No.	遺跡名	所在地	事業名	調査期間	成果
1	蒲生・上の原	山鹿市蒲生字上の原(台)	畑総	H5. 5.23～H6. 1.14	環濠集落(弥一後)、遺物散布地(縄一早・後・晩)
	〃	鹿本郡鹿本町津袋			
2	竈門	玉名郡菊水町竈門(段)	ほ場	H5. 4～ 5	円墳(古)、甕棺(弥一中)、遺物散布地(縄一後)
3	大塚	玉名市立願寺(沖)	県道	H5. 9.13～H6. 1.14	掘立柱建物(奈)、遺物散布地(奈・平)
4	羽無田	菊池郡西木町南田島(沖)	ほ場	H5.11～H6. 3.25	集落(古)、遺物散布地(縄一後)
5	立石	菊池郡大津町鉛野字立石(段)	ほ場	H5.12. 1～H6. 3.31	集落(弥一中・後)、配石遺構(弥一後)、遺物散布地(縄一早)
6	山川板碑群	阿蘇郡小国町北里字山川(丘)	町道	H5.12.13～12.24	板碑(中)
7	古池さん北	阿蘇郡西原村小森字桑鶴(台)	県道	H6. 2.15～ 3.25	竪穴住居、集石(縄一後)、遺物散布地(縄一後・晩)
8	打砕	阿蘇郡西原村小森字土橋(台)	県道	H5. 7.27～ 9.24	遺物散布地(縄一後・晩)
9	古閑北	上益城郡益城町福富(沖)	産業展示場建設	H5. 6.14～H6. 3.31	土坑、竪穴住居(縄一晩)、遺物散布地(縄一後・晩)
10	谷口	熊本市清水町万石字谷口(丘)	県営団地	H5.11～H6. 3	竪穴住居(縄一後、平)、掘立柱建物(平)、道路(平)
11	庵の前	熊本市龍田町上立田字古閑山(台)	県道	H5. 4～H6. 3	甕棺、竪穴住居(弥一中)、遺物散布地(縄一早)
12	蚕業試験場遺跡	熊本市水前寺６丁目(沖)	県庁駐車場建設	H5.10～H6. 2	掘立柱建物(平)、道路(平・中)
13	熊本城二の丸跡	熊本市古城町３番１号(台)	学校施設建設	H5.10～H5.12	井戸、排水路、土壙、柱穴(江戸～昭和)
14	藤の淵	本渡市亀場町亀川字藤の淵(台)	県道	H6. 2～H6. 3	遺物散布地 (縄)
15	頭地１	球磨郡五木村頭地(丘)	川辺川ダム建設	H5. 4～H6. 3	遺物散布地(平、古、縄一早・前・後)
16	松岡屋敷跡	八代市平山新町(山裾)	自動車道	H5. 4～H6. 3	武家屋敷跡(近)
17	平山瓦窯跡	八代市平山新町(山裾)	自動車道	H5. 4～H6. 3	瓦窯(近)
18	沖松	球磨郡須恵村沖松(台)	畑総	H5. 4.14～H6. 3.31	集落(古～平)、埋甕(縄一後・晩)、遺物散布地(縄一晩)
19	灰塚	球磨郡深田村灰塚(台)	畑総	H5. 8.23～H6. 3.31	武士居館(中)、土坑、集石(縄一早)、遺物散布地(縄一早)



（凡　例）

1．立地については、それぞれ台地、丘陵地、山地、段丘、河川沖積平野の頭文字をつけた。
2．成果の時期は、次のように記す。

先土器時代――――先　　奈良時代――奈
縄文時代　早期～晩期　　平安時代――平
　縄一早・前・中・後・晩　　中　世――中
弥生時代　前期～後期　　近　世――近
　弥一前・中・後
古墳時代――――古

◎編集後記◎

考古学ブームの昨今、全国各地で貴重な発掘成果が報告されています。我々調査員は、少しでも多くの情報を皆さんに報告したいと思っています。文化財に対しての御意見・御質問をお待ちしています。

第８号
平成７年３月31日発行
発行　熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺６丁目18－１
☎ 096－383－1111（6716）
印刷　ホープ印刷

06 教委 教文
③ 001